

分野別
将来像

魅力的で、安全に移動できる交通環境が形成されたまち 調布

《将来像に込めたあるべきまちの姿》

- ・子ども連れの方や高齢者、障害のある方など、すべての人が安心して利用できる交通環境や、環境にもやさしい道路の形成を目指します。
- ・街路樹による緑化や無電柱化、舗装の色調等を適切に誘導することで、だれもが市内をゆったりと歩いて楽しめる街並みの形成を目指します。
- ・調布市ミニバスや民間バス、自転車等がさらに活用され、より魅力的で身近な足となるように、分かりやすく利用しやすい公共交通網の実現を目指します。

《将来像につながるキーワード》

人と環境にやさしい、安全・安心、便利、回遊性、歩行者が歩きやすい、歩きながら楽しめる、京王線以外の公共交通の利便性、エンジョイ、やさしく楽しい
100年構想、トラム(路面電車)、ゆったり、ゼロエミッション、ウォーカーフレンド、自転車、道路の保全

まちづくりの
方向性と
基本的取組

①人と環境にやさしい安全で便利な道路・交通環境の整備

- ◆歩行者や自転車が安全に通行できるよう、歩道の拡幅やバリアフリー化、専用道路や街灯等の整備、無電柱化を促進します。
- ◆脱炭素化にも資するよう、低環境負荷の自動車の利用促進やカーフリーの取組等を通じて、環境にやさしい交通環境の整備を推進します。
- ◆市内の交通利便性を高めるため、シェアサイクルやデジタル技術を活用した新たな交通手段の導入を推進します。
- ◆自分で車を運転できない市民も快適に移動できるよう、公共交通の利便性の向上を図るとともに、車や自転車等の多様な移動手段を利用できる道路ネットワークの形成を図ります。

②だれもが、調布らしい歩きたくなるまちづくり

- ◆市民や来訪者も含め、だれもが安らぎを感じながらまちを歩くことができるようにするため、各地区の特性を踏まえながら、街路樹の植栽や適正管理など、調布らしい自然と調和した道づくりを推進します。
- ◆人々に市内観光名所の周遊を促し、賑わいの創出に結びつけるため、シェアサイクル等の取組を推進するとともに、歩行者天国の活用や自転車利用者のマナー向上等を通じて、歩行者が歩きやすいまちづくりを推進します。

現状と
課題

強み(良いところ, 伸ばしたいところ)

- 大きな道路(甲州街道, 東八道路, 鶴川街道, 他)が東西南北に走っており, しっかりと整備されている
- 都心へのアクセスのよさ, 交通の便がよいところ
- 南北方向のバス路線が豊富なこと, 他

弱み(悪いところ, 改善したいところ)

- △道路が狭く通行しにくいところがある, 住宅地を中心に道路や歩道が狭い
- △歩くための動線がない(計画的に野川方面, 深大寺方面, 多摩川方面のよう
に明確に歩行者と自転車のための道をつくる)
- △京王線以外の公共交通アクセスの利便性, 他

各地域の特色を活かし、多彩な魅力に満ちあふれたまち 調布

《将来像に込めたあるべきまちの姿》

- ・各地域の特色や魅力を最大限に引き出し、市内外からより多くの人たちが集い、憩い、活動できるにぎわいに満ちたまちを目指します。
- ・さまざまな世代や世帯のライフスタイルとニーズに応じた住まい方に対応できる、良質な住宅整備環境が整ったまちを目指します。
- ・調布らしい特徴的な街並みを醸し出す優れた景観資源を大切に守り・育て・つくることで、魅力的な景観が形成されたまちを目指します。

《将来像につながるキーワード》

調布らしさ・個性のあるまち（緑があふれる、調布駅前のイベント開催、緑と都市機能が融合しているところ）、地域の特色・魅力、生活利便性、賑わい、ゆとり（快適さ、景観的な要素など）、うるおい、親しみ、安心、良好な街並み、電柱の地中化、多様なライフスタイル自然との共生、街路樹、暮らしがメイン・暮らす日常（のんびりできるまち）、桃源郷的な要素、ゼロエミッション、コンパクトシティ、利便性、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）、ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）

①エリアごとの特色・魅力を活かしたまちづくり（駅周辺整備）	②だれもが安心して暮らすことができる住環境の整備（住宅）	③調布らしさを醸し出す良好な街並みや景観の維持・形成（景観）	④モデルとなる公共施設の整備
<ul style="list-style-type: none"> ◆調布の顔にふさわしい賑わいとうるおいにあふれ、親しみのある駅前広場となるよう、調布駅周辺において、事業者等と連携しながら、イベントの実施や調布のシンボルとなるような施設の整備等を検討します。 ◆その他の駅周辺では、各地区の特性に応じた車歩道分離や公共サイン・災害時の案内板等の整備、自然環境や文化的資源等を活かした特色あるまちづくりを推進します。 ◆それぞれの地域の街としての価値の維持・向上を図るため、市民・事業者・地権者等が主体となったエリアマネジメントの手法を取り入れたまちづくりを推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆空き家の廃墟化や老朽化の適切な防止に結びつくよう、市民農園や地域での居場所づくり、公共施設等への活用方法を検討します。 ◆高齢者や貧困家庭など、住宅の確保に特に配慮を要する方が地域の中で取り残されず、自立した生活を安定的に送ることができるよう、セーフティネットとなる公営住宅や集合住宅の維持・確保を図ります。 ◆世代や世帯構成、ライフスタイル等に応じた多様な住宅が供給され、子どもから高齢者まで多様な世代がバランスよく居住できる良質な住宅ストックの形成を促進します。 ◆住宅のバリアフリー化や耐震化を推進し、安心して暮らすことができる環境を整備します。 ◆ZEB（ゼブ）や ZEH（ゼッチ）等の環境に配慮した考え方を取り入れた住環境の整備に推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆調布らしい緑あふれる景観を継承するため、農地を含めた緑地を保全するとともに、景観を損なわない建物の整備を誘導するなど、自然と共生したうるおいのあるまちづくりを推進します。 ◆歴史・文化芸術・スポーツなどの地域資源等を活かした調布のまちを代表するような景観を形成するため、景観条例を踏まえた計画的なまちづくりを推進します。 ◆良好な都市景観の創出はもとより、安全で快適な歩行空間の確保や都市防災機能の強化にも結びつくよう、都道や市道における無電柱化を促進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆だれもが使いやすく、地域コミュニティが活性化し、絆が醸成する拠点となるよう、ソフト面における機能の充実・仕掛けの工夫を図る。 ◆今後の社会ニーズに対応し、災害への備えや脱炭素化を進めるため、施設の老朽化対策を進めるとともに、再生可能エネルギーの利活用をはじめとするゼロエミッションや、フェーズフリーの考え方を取り入れた各種施策のモデルとなるような公共施設・学校施設の整備に取り組む。

強み（良いところ、伸ばしたいところ）	弱み（悪いところ、改善したいところ）
<ul style="list-style-type: none"> ○調布駅広場の賑わいの創出、駅前が広くなりスペースを活用できる ○住民参加のまちづくりが行われている ○産学官の連携による空き家対策が進んでいる ○都心に近い場所にありながら、自然が残されている、他 	<ul style="list-style-type: none"> △駅ごとの特色、多様性のある駅前整備が不十分 △農地が無秩序に宅地化されていくことで、インフラ整備や適正なまちづくりが追いつかなくなる可能性がある △住宅開発の小規模化が進むことで、景観の統一感が失われる、他

分野別
将来像

まちづくりの
方向性と
基本的取組

現状と
課題

分野別
将来像

豊かな水や緑と共生し、人と人がふれあえるまち 調布

《将来像に込めたあるべきまちの姿》

- ・次世代に誇りをもって継承できるよう、多様な主体が一体となって、地域ぐるみで水と緑の創出や保全、育成に取り組むまちを目指します。
- ・多くの市民が気軽に集い、憩い、心を通わせられる場所として、水辺環境や農地、公園の積極的な活用に取り組むまちを目指します。
- ・市民や地域活動団体を含めた民間活力を活用しながら、公園の新たな魅力づくりや効率的な維持管理・運営に取り組むまちを目指します。

《将来像につ
ながるキーワ
ード》

緑(グリーン)が多い, 自然が豊富, 水辺(ブルー)が多い, 住民自らが緑を守る・育てる, 市民参加(ボランティア, 若者の参加), 安心感を得られるような緑・水,
身近で親しみやすい, めくもり, 公園, 緑を通した人とのつながり, 田園都市, 緑と青に溢れた調布,

まちづくりの
方向性と
基本的取組

①豊かな自然と共生したまちづくり

- ◆今後も引き続き、豊富な自然と景観を大切に守り・活かすため、既存の緑地や農地等を保全するとともに、所有地や国有地を活用した緑の創出、バランスのとれた緑地開発、適切な農業支援を推進します。
- ◆貴重な自然環境である崖線樹林について、緑豊かな風景を維持するため、保全活動を推進します。
- ◆市内が水と緑と花でつながることで、人を含むすべての生き物にとって心地のよい緑の環境形成を図ります。
- ◆地域コミュニティや学校教育等と連携した取組を通じて、多くの市民に環境への興味を持ってもらうための機会を創出します。

②農地の確保・活用に向けたまちづくり

- ◆農地を守り、地産地消を推進するため、市内の農家・市民が作物を栽培し続けられるシステムを構築します。
- ◆都市農地の保全のため、農業ボランティアの活用や新規農業従事者の育成など農業への支援体制を充実させます。
- ◆NPO法人や市民団体などと連携し、自然を学ぶ場、土と触れ合う場として、学童農園、農業公園などの整備を推進する。
- ◆農業を通じた共生社会を実現するため、農福連携の取組を推進します。

③水辺環境を活かしたまちづくり

- ◆市民等との協働により、貴重な湧水や河川の水辺環境を守るための取組を推進します。
- ◆人々が集い・憩える場所として、治水や河川環境との調和に配慮しながら、人々が集い・憩える場として川辺の活用を図ります。
- ◆地下水や湧水の保全のほか、ゲリラ豪雨による都市水害への対応のため、雨水浸透ますの設置や透水性の高い道路舗装等により、雨水貯留浸透機能の強化を図ります。
- ◆多摩川や野川、仙川等の河川について、河川沿いの緑化等により、水辺環境や景観の向上を図ります。
- ◆水源として機能している貴重な湧水や河川等に近接している樹林地等の緑について、河川敷の草地等との連続性に配慮しながら、水辺環境との一体的な保全を図ります。

④身近な公園の整備・憩いの場づくり

- ◆公園がより身近で、安全かつ楽しく遊ぶことができる場となるよう、地域住民の参加による管理手法を取り入れた公園づくりに取り組みます。
- ◆子どもから高齢者まで、だれもが使いやすい公園のあり方やデザイン、災害等の非常時にも対応できるフェーズフリーの考え方を取り入れた遊具や公園の整備を検討します。
- ◆市民が思わず足を留め、憩える公園となるよう、花いっぱい運動等を推進します。
- ◆公園が不足している地域を中心に、提供公園の活用をはじめ、国有地や所有地を有効活用した公園の整備に取り組みます。
- ◆既存の公園施設の日常点検、定期点検を計画的に実施し、長寿命化が図られるよう適時適切な維持管理を実施します。
- ◆子どもたちの好奇心や自主性を育み、生き生きと成長できる場として、子どもが「遊び」をつくる遊び場であるプレパークの整備を地域活動団体と行政の協働で取り組みます。

現状と
課題

強み(良いところ, 伸ばしたいところ)

- 市内に自然が多いことを誇りに思っている市民が多い
- 深大寺、佐須地域を中心とした緑豊かな風景
- 多摩川や野川等の豊富な水資源
- ほっとできる公園が充実している、他

弱み(悪いところ, 改善したいところ)

- △宅地開発等で自然が減っている印象を受ける
- △公園、緑道・緑地、崖線の緑の適正管理が不十分
- △河川の整備(氾濫、浸水等を防ぐため)
- △老朽化した公園設備の更新が必要、他

分野別
将来像

脱炭素・循環型社会を形成し、快適で美しいまち 調布

《将来像に込められたあるべきまちの姿》

- ・市全体でクリーンなエネルギーや省エネの普及拡大に努めるとともに、最新の優れたデジタル技術を最大限に活用し、持続可能な脱炭素社会の構築を目指します。
- ・市民・事業者による5Rの取組を推進するとともに、ごみの安定処理と適正処理に努め、資源循環型社会の構築を目指します。
- ・「自らのまちは自らがきれいに」を基本原則とし、地域の美化活動を面的に広げることで、快適で美しく清潔なまちを目指します。

《将来像につながるキーワード》

脱炭素社会, ゼロカーボンシティ宣言, 先進都市, 産学官連携, ごみの排出量の抑制, まちの美化, クリーン, 環境にやさしいまちづくり, 循環, 持続可能性(サステナブル), 次世代につなぐ, 暮らし, 地球温暖化対策(二酸化炭素・メタンガス), デジタルで作り出すゼロカーボン先進都市調布, グリーンインフラ, 河川の氾濫防止(市民の安心・安全), ソーラー発電

まちづくりの
方向性と
基本的取組

①脱炭素社会の構築に向けたまちづくり

- ◆トッランナーとして、ゼロカーボンの実現に向け、産学官民一体となり、「2050年までに二酸化炭素排出を実質ゼロ」にする「ゼロカーボンシティ宣言」に基づく取組を積極的に推進します。
- ◆環境学習の取組と併せて、デジタル技術を活用し、情報の「見える化」を図り、市民のアクションにつながる取組を推進します。
- ◆住宅の断熱性向上等による住居の省エネルギー化、業務ビルや店舗等における省エネルギーの推進など、市民・事業者の主体的な環境行動を促進します。
- ◆地域ぐるみで温室効果ガスの排出量を抑制する取組や、河川の氾濫等にもつながる気候変動に伴う異常気象への適応策を推進します。

②ごみの減量と適正処理の推進

- ◆「CHOFU プラスチック・スマートアクション」に基づき、市民・事業者と一体となった行動により、プラスチックごみの減量やプラスチックごみの海洋流出防止につながる取組を積極的に実施していきます。
- ◆ごみの排出量の削減と併せて、コンポストなどのごみの資源化の取組を促進し、循環型社会の仕組を構築するとともに、環境学習を推進します。
- ◆ごみの発生抑制を最優先に、ごみを出さない、ごみになるものは受け取らないといったごみ減量につながる啓発や、ごみ減量に向けた市民・事業者の自主的な取組を支援します。
- ◆ごみの分別のさらなる徹底等による資源化を推進するとともに、不法投棄対策の充実等によって、ごみの適正処理を推進します。

③良好な都市環境の維持・確保

- ◆大気汚染や水質汚濁、騒音・振動等の公害の未然防止に向けて、監視体制の継続や関係機関とともに、規制・指導を行います。
- ◆空き缶や吸い殻などのポイ捨て防止や喫煙等のマナーが守られるよう、注意喚起等に取り組むとともに、清掃等の美化活動や美化対策の推進によって、次代を担う子供たちに良好な環境を残せるよう、快適な都市環境の確保に取り組めます。
- ◆騒音や悪臭など、地域住民の日常生活に起因する近隣公害の発生を未然に抑制するため、市民の意識啓発に取り組めます。

現状と
課題

強み(良いところ, 伸ばしたいところ)

- ゼロカーボンシティの宣言を行った
- 市民活動団体との協働による環境保全の取組が多く行われている
- ごみの減量対策・分別の徹底
- ボランティアや商店等による、美化活動が積極的に行われている, 他

弱み(悪いところ, 改善したいところ)

- △脱炭素社会に向けてのアクションが、市民レベルまで浸透していない
- △太陽光発電の導入を促す取組が不十分
- △環境活動への参加者が少ない
- △吸い殻や飲食ごみのポイ捨てが絶えていない, 他